


1	チーム名 (研究対象領域・教科) 小学部 生活単元学習
2	メンバー 小学部教員 6 名
3	チームのテーマ 子どもの「やってみたい」を引き出す場の設定や、教材・教具の工夫
4	<p>対象児童に願う主体的な姿</p> <p><対象児 A(小学部 4 年)></p> <p>○実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肘から指を動かすことができる。 ・手先が器用で、指先の細かい動きの活動ができる。(例：シール貼り) ・できない経験をしたり、自分でできないと判断したりすると、手が出ないことが多く、集中が切れてしまうこともある。 <p>⇒「もう一回。」と活動を要求したり、自分から教材に手を伸ばしたりと、積極的に取り組む姿を引き出したい。</p> <p><対象学級 B(小学部 5 年・重複)></p> <p>○実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手先にまひがあり細かい作業に支援を要する児童もいれば、手先が器用で意欲的に調理に取り組む児童もあり、作業面において実態の差は大きい。 ・歌や絵本、パネルシアターなどが好きである。 ・初めてのことは見通しが持てずに大きな声を出すなどして抵抗することもあるが、何度も繰り返して行うことで見通しを持って活動に取り組むことができる。 <p>⇒自分の役割がわかって自分から教材を手にとって活動に取り組み、自分で「できた」という達成感を感じながら活動に取り組む姿を引き出したい。</p>
5	<p>研究実践の内容</p> <p><対象児 A></p> <p>(1) 研究仮説</p> <p>対象児の興味のある物を教材に取り入れることで積極的に活動したり、選択肢を複数設けるなどすることで「自分で」取り組む意欲を高めたりすることができるのではないかと。</p> <p>(2) 実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事(遠足)と関連させて、実際に見たことや経験したことを教材に取り入れた。 ・様々な素材を用いて関心を高めると同時に、同じ動作(握って離す)で取り組める活動にした。 <p>(3) 成果と課題</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貼りつける素材や動物の型紙を自分で選び、制作に取り組むことで、対象児にとって本時の活動内容が印象づけられた。 ・完成した作品を持ちあげ、クラスメイトに見せる姿があった。 <p>制作の達成感の表れではと考える。</p> <div data-bbox="347 1906 1062 2018" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>袋からスパンコールを取りだし、動物に貼りつける様子。自分で貼る素材を選び、活動に取り組んだ。</p> </div> 

<課題>

- ・環境の設定。研究授業時では対象児Aにかかわる時間が少なかった。V字やT字の形に机、車いすを配置することで教師とのかかわりだけでなく、友達同士のやりとりも生まれたのではないかと考える。
- ・ボンドの使い方。自分でボンドを塗ろうとすると、型紙がずれてしまったり、手にボンドが付き気になってしまったりした。型紙がずれないように、パネルにはめたり、接着剤をボンドではないものにしたりする工夫が必要だった。また、手にボンドが付く対策として、おしぼりを準備したり、水道近くで活動したりすることが挙げられた。



細かくした紙、毛糸、スパンコールの素材を使用した。

<対象学級B>

(1) 研究仮説

対象児の好きなものを教材として取り入れ、関連させることで、興味関心をもって活動に参加できるのではないかと考える。

(2) 実践

- ・導入部分で絵本「しろくまちゃんのホットケーキ」の読み聞かせを行い、絵本と同じ手順で活動を進めるようにした。
- ・絵本のイラストや顔写真付きの手順表を使うことで自分の役割を意識させ、それぞれの実態に応じて調理器具を変えて、できるだけ自分一人で扱うことができるようにした。



(3) 成果と課題

<成果>

- ・導入部分で絵本や児童の好きなパネルシアターのキャラクターを取り入れたことで、教師の読み聞かせに合わせて台詞を読んだり、動作を模倣したりする姿が見られ、授業内容に興味を持たせることができた。
- ・同じ活動を繰り返し行うことで自分の役割がわかり、自分の役割ができたときに拍手をしたり、「やったー」と言ったり、周囲の人に見て欲しいことを伝えたりする姿が見られたことから、自分で「できた」という達成感を感じることができたのではないかと考えられる。



<課題>

- ・ボウルやジップロックなどが小さく、児童が一人で扱いにくい大きさのものだった。
- ・友達が役割をしている間の待ち時間に友達の活動に興味を持たせるための手立てが不十分で意欲が途切れてしまった。数唱できる児童には手元に数字カードを置いて教師と一緒に数えたり、友達が混ぜているボウルを押さえてあげるように促す等の支援が必要だった。